

授業概要

高等学校で生徒が身につけるべき内容を新学習指導要領の指導事項を理解して、新国語科の指導を通して確実に実力が高まるように授業展開を進めていく。

特に、思考力・判断力・表現力の育成を図るために、各領域の活動を相互に関連づける必要がある。そして、大学入試に際しての基本的な力量を定着させていくためにも自己表現力を高めていかなければならない。

授業においては、具体的な教材をとおして教科教育法を工夫改善していく方法を構築して求められている能力を発揮するために必要な教師の力量を考えていく手立てをとりたい。授業の楽しさ、面白さ、意欲の湧く授業を目指して教科教育法を展開できるようにする。さらに、情報通信技術の導入を踏まえた授業設計の方法についても指導する。

授業計画

第 1 回	高等学校で身につけるべきこと・和歌等韻文系教材の指導
第 2 回	「読むこと」に関する学習指導・文学教材に関する教材分析と授業設計
第 3 回	「読むこと」に関する学習指導・説明文教材に関する教材分析と授業設計
第 4 回	「読むこと」に関する学習指導・古文教材に関する教材分析と授業設計・ICT の活用
第 5 回	「読むこと」に関する学習指導・漢文教材に関する教材分析と授業設計・ICT の活用
第 6 回	学習指導案の書き方・模擬授業計画・教材文の読み込み・分析の交流
第 7 回	「書くこと」に関する学習指導・話し合い活動と組み合わせた表現力を高める書く力の育成
第 8 回	「話すこと、聞くこと」に関する学習指導・ディベートによる話し合い活動
第 9 回	高等学校国語科模擬授業実践(1) ・受講生による模擬授業 ・授業に対する意見交流と評価
第 10 回	高等学校国語科模擬授業実践(2) ・受講生による模擬授業 ・授業に対する意見交換と評価
第 11 回	高等学校国語科模擬授業実践(3) ・受講生による模擬授業 ・授業に対する意見交流と評価
第 12 回	高等学校国語科模擬授業実践(4) ・受講生による模擬授業 ・授業に対する意見交換と評価
第 13 回	高等学校国語科模擬授業実践(5) ・受講生による模擬授業 ・授業に対する意見交流と評価
第 14 回	高等学校国語科模擬授業実践(6) ・受講生による模擬授業 ・授業に対する意見交換と評価
第 15 回	国語科教育法Ⅳを振り返って ・よりよい授業とは ・授業実践の極意を話し合う
第 16 回	まとめ レポート提出

到達目標

高等学校の国語科として身につけておくべき能力を理解して、各領域での模擬授業等を展開して、評価規準を含めた学習指導案の作成の仕方をより確かな実践で協議会を通して検証することができる。豊かな言語活動からコミュニケーション能力を引き出す工夫を加えることができる。

履修上の注意

教師として高校国語科をどのように指導すればよいかということを確認にした自分づくりが求められることを認識して授業に臨んでほしい。各領域での具体的な活動や書く力が求められることも少なくないので、自己の文章力向上に努めてほしい。模擬授業を増やし、実践力をつける。なお、履修にあたっては、2 年次に国語科教育法Ⅰ・Ⅱを、3 年次前期にⅢをすでに履修し終えていること。

予習・復習

- ・予習、復習を必ずして、自己の課題を押さえた上での授業参加をすること
- ・ノート整理を的確にして、学びの習慣化を図ること
- ・日頃から社会問題に関心をもって物事に取り組むこと

評価方法

授業内の学習活動（30%）及び、授業内の提出物および、模擬授業学習指導案の作成（30%）、授業の達成目標の達成度を課題レポート（40%）で評価する。

テキスト

- ・教科書名：『高等学校学習指導要領解説書国語編』（文部科学省）
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館出版社
- ・出版年（ISBN）：978-4-491-03640-3